

平成29年度 横浜市立義務教育学校霧が丘学園小学部「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

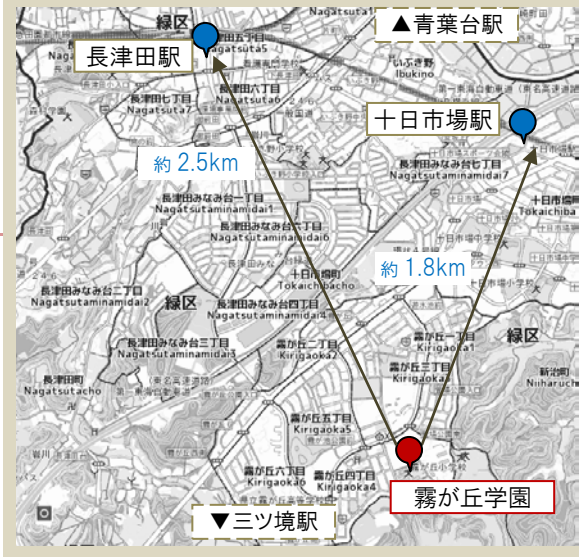
- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。霧が丘学園では、横浜市交通局と連携し実施しました。
- 霧が丘学園は、JR 横浜線 十日市場駅を最寄り駅とし、横浜都心部との接続の良い地域です。
- 駅から離れた霧が丘学園の子どもたちは、駅方面に行く際の乗り物としてバスを身近な乗り物と認識しています。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、実際のバス車両や車いす等を使った体験授業も行われました。
- クラス別に、①バス車両を用いた車いす利用体験・介助体験、②バスの乗り方に関する紙芝居及び運転席からの死角の体験、③バスのバリアフリーに関する座学を行いました。
- バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に行うことで、子どもたちのこれからの生活の中で「活かした知識」として根付くことを期待します。
- 横浜市都市整備局は、③の座学において、**バスのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さ**を伝えました。

■交通バリアフリー教室について

- 【日時】平成29年7月3日(月)
第1～4校時(8:50～11:30)
- 【対象】霧が丘学園
5年生1～3組(108人)
- 【内容】①バスを用いた車いす利用体験・介助体験
②バスの乗り方紙芝居、バスの死角体験
③バスのバリアフリーに関する座学
→クラスごとに分かれて実施



2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、「もっと知ってほしい バスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできた、**バスのバリアフリーの現状**を中心に授業を行いました。
- その中で、バスの利用者が減少していくと「**バスが将来、無くなってしまう**」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- マンガリーフレットを読んだ子どもからは「**将来バスがなくなってしまうとお年寄りが困ってしまう**」など意見がもらえ、今利用しているバスを大人になっても利用するよう心がけてほしいと伝えました。
- 霧が丘学園は最寄り駅まで約2km離れており、ほとんどの子どもが駅へ行くにはバスを利用している様子でした。中には、塾や習い事などで、バスを1人で利用する子どもも見られました。
- 「**行き先や状況に応じて、バスを上手に使って暮らす**」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知ってほしい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



おわりに

- 今回の交通バリアフリー教室を経験して、**車いすで移動することの大変さとともに、移動の介助の難しさ、大変さを肌にした子どもがたくさんいました。**
- 子どもたちが今まで以上にバスへの関心をもち、**これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートするきっかけとなる「交通バリアフリー教室」となりました。**
- また、普段は座る事の出来ない運転席に座ってバスの死角について学んだり、バスのルールや乗り方を学んだり、バスの運転手さんと積極的に交流するなど、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。
- いつもバスを利用しているようですが、いつも以上にバスを身近に感じてくれた1日になったと思います。



普段は座れない、運転席から見える、バス車外や車内の様子を知り、安全のために大切なことを学びとっていました。



座学



車いす利用・介助体験



死角体験



バスの乗り方に関する紙芝居